



# いなほ



令和4年3月22日  
令和3年度学校だより NO.57③  
加古川市立平荘小学校

## いよいよ明日は卒業式です

3月23日(水)は、平荘小学校の第129回卒業証書授与式です。コロナ禍の中、新型コロナウイルス感染防止対策として、コロナ前とは形をかえて挙行します。

コロナ前に行っていたような卒業生と在校生による『よびかけ』は行いませんが、卒業証書授与の直後に一人一人が将来に向けての誓いの言葉を宣言します。

いつも子どもたちを温かく見守って下さっている方々に、巣立っていく卒業生の晴れの姿をみていただきたいところですが、コロナ対策としての市の方針により、来賓はPTA会長様のみでお願いしております。

在校生は、5年生が代表して参列します。



明日の卒業証書授与式が、卒業生にとって心に残る温かい卒業証書授与式になるように、在校生並びに職員一同で、精一杯関わっていきます。

明日、1～4年生は、卒業生におめでとうの気持ちをもって自宅で過ごします。

## 山口耕道先生の狂言

3月19日（土）に、丹波篠山市民センターにおいて、『篠山こども狂言 春の発表会』が開催されました。番組は、『萩大名』『痺痺』『酢薑』、番外狂言として『寝音曲』を上演されました。山口耕道先生は、『寝音曲』の太郎冠者を演じられました。

会場で狂言を觀賞していますと、クスクスと笑い声が聞こえてきます。

以前、山口先生が、「狂言は喜劇だから、お客様は笑いに来られます。そのお客様の期待を裏切ってははいけません。」という言葉の思い出しました。

また、「演じる者は、観客を意識して、観客に思いを届けましょう。」と子どもたちに教えていただいたことを想起しました。

狂言の舞台は、演じる者と舞台裏で控えている者、そして、観客の三者で創り上げるものだと実感しました。

『寝音曲』は、主人を茂山忠三郎氏、太郎冠者を山口耕道先生が演じられました。

また鑑賞したいと思いました。

### 3月20日（日）の新聞記事より

3月20日（日）の神戸新聞に、山口耕道先生の記事が掲載されていました。内容を見ますと、『児童が継ぐ平荘小の狂言発表会』という見出しの記事でした。



### 《記事の内容について》

- ・平荘小学校では、毎年、6年生全員が平之荘神社で狂言発表会を行っていること
- ・山口耕道先生が、平荘小学校の狂言を指導することになったきっかけ
- ・今年度で21年目を迎える狂言発表会は、学校と地域との結びつきの強さによるもの
- ・平荘狂言後援会の活動
- ・平荘小学校の狂言発表会の様子
- ・狂言について（表現の仕方や伝統芸能としての狂言）
- ・平荘小学校の子どもたち
- ・言葉の力
- ・能楽師としての心構え

狂言はせりふ劇なので、言葉で伝えることが一番大事です。

人の耳や目はわがままなもので、聞きたい音を聞き、見たいものを見ます。

「舞台を観よう聞こうとして来てくださった方々へ向かって言葉を届けましょう」と申しております。

毎年同じ狂言を繰り返しますので、少しでもやらされている感があると、見られたものではありません。伝統芸能は相変わらずのことをやりますが、その時々思いを注ぎ込むことが肝要と、口が酸っぱくなるほど申します。

言葉は不思議なもので、伝えようとの思いがないと相手には届かないものです。

能楽師は舞台へ上がるたび、神に向かって奉納していると思っています。

### 山口先生が平荘小学校に狂言学習の指導に ごられるようになったきっかけは？

- 平之荘神社の能舞台に鏡の松が描かれたこと
  - 6年生の国語の教材に狂言「附子」があったこと
  - 学校のすぐ近くに能舞台があったこと
  - 当時の宮司さんと校長先生が意気投合されたこと
- ⇒それらが相まって、狂言発表会が決まったと聞きました。

※縁あって私（山口先生）が指導するようになり、狂言が学校行事として長く続けるのは本当にありがたいです。

### 学校と地域との結び つきの強さを感じます

- 地域の方々の応援
- 平荘狂言教室後援会による支援